

## 新刊

□李 永魯 Lee Yong No: 韓国植物図鑑  
**New Flora of Korea 2006** I, 976 pp., II, 888  
 pp. 教学社. I+II 300,000ウォン.

韓国の全ての維管束植物を網羅した図鑑である。全て原色写真で、多くは必要な部分の拡大写真が添えてある。記載は韓国語であるが、名前はラテン語の他に、中国語、英語、日本語が添えられ、また巻末に新しく作られた学名が載せられている。韓国の植物を調べるのには欠かせない重要な文献である。ただ、記載は総て韓国語なので、せめて英語でも併記してくれたなら、もっと利用しやすいものになったであろう。(山崎 敬)

□神奈川県植物調査会：小原 敬先生著作集。  
 A4版。280 pp. 2007. ¥1,500. (送料別)。  
 同会。ISBN: no number.

小原 敬氏は神奈川県を中心に活躍しておられるが、それよりも科学史やとくにロシア語関係文献に詳しいことで貴重な存在である。1921年生まれの小原氏の活躍を記念して、このたびその著作集が刊行された。まず10名を超える方々による賛辞に続いて小原氏がその出自を簡潔に語っている。出生はアメリカだが小学生時代に満州へ移り、戦争、敗戦とご苦労を重ねながら藤沢に落ち着いたことが、略歴と共に読み取れる。著作目録では全作品242点が年代順に示されている。これに続く本書の主部では、①. 研究論文、②. 地域への貢献と分けて、作品のおそらくすべてが採録され、ところどころには小原氏の手書きの修正が見られる。巻末に研究史関係論文に出てくる人名の索引がある。このように個人の業績が一冊に集積され、履歴や背景説明が付加されると、あらためてその方の全貌を見直すことになり、感銘を受ける。希望者は表記調査会(250-0031 小田原市入生田499 神奈川県生命の星・地球博物館内)に申し込めば、請求書つきで送付するとのことだが、残部は少ないとのこと。(金井弘夫)

□安藤敏夫, 小笠原亮, 長岡 求(監), 森弦一(編): 日本花名鑑4 B5 551 pp.  
 2007. ¥4,800. 日本花名鑑刊行会・アボック社(発売)。ISBN: 978-4-900358-59-1.

本書の第二巻は2002年刊行で、当時紹介した。その後2003年に第三巻が出たのち、しばらく間をおいて今回の刊行である。前巻では野菜や果物にまで範囲を広げる意図が見られ、先行き手が廻らなくなるのではと心配した。本巻でも多少そういう種類が入っているが、どうやら花卉・緑化植物市場の流通品にひとまず絞っているように思える。

前巻までは植物の配列は植栽用途別で、各頁の袖にそれぞれ10種類のカラー写真が示され、ごく簡潔な名称情報、栽培情報、流通コードが記されているだけだったが、本書では配列は学名順、産地や形態についての文章体の記述がふえ、図鑑的に読める内容となっている。1994年に豪州で発見された中生代の遺存的裸子植物 *Wollemia* については、希少な野生集団を人間による絶滅から守るために、苗木の販売が始まったとの記事が見られる。

文章が増えた分頁あたりの種類数は減り、ざっと数えて6,000件を超える栽培品が、流通名と共に示されている。カラー写真は各頁4, 5枚となり、前巻より大きくなったが、発色については多少霞がかかったようで、もう一息というところ。収容する種類数が減った分を増頁で補っているが、値段とのかねあいもあり、当初の「流通市場の整理」という方針からブレが見られる。あまり欲張ると収拾が難しくなるので、こゝらで編集方針の整理が必要だろう。次の巻はどのような形になるのか、続刊を期待したい。(金井弘夫)

□大場秀章(編): 植物文化人物事典 A5版。  
 632 pp. 2007. ¥7,600. 日外アソシエーツ。  
 ISBN: 978-4-8169-2026-4.

副題は「江戸から近現代・植物に魅せられた人々」であるが、英文表題の *A Dictionary of Botanists and Persons Concerned with Japanese Plants* の方が、内容をよく表していると思う。われわれが常識的に考える「学」の範囲を取り払って、実業、芸術、趣味、政治と、職業